

せいけん
詩集

第百十七篇

作：近藤せいけん

「一日の終わりに」

丹沢の彼方に
日が沈んでゆく

「今日も精一杯やった
いろいろ あったな
でも いい一日であった」

沈んでゆく夕陽に
手を合わせる

「明日も いい事が
ありますように」

辺りが だんだん
暗くなる

田んぼのカエルの鳴き声
一段と高くなる
夏に向かう 一日

一日に生きる 一日の終わりに

